

IKEDA House MAGAZINE

VOLUME 01 / APR.2011

めくるめく感動



TOYAMA No.1 Architect & Builder

Design Office REFORM **AKI**

見事な充実設備

鉄骨階段縞鋼板

Platinumリシン葺き

TOYO KITCHEN STYLE BAY 2400

EcoCute — 自然冷媒ヒートポンプ給湯機 —

オートシャッター

ガルバリウム鋼板

モルタル金コテ

立平ロック25型W333

LIXIL aquale



建ててからも続く重労働

175-16

www.reform-aki.jp

President Voice

社長あいさつ

毎 物件、お客様に満足してもらえ、無駄のないコストパフォーマンスに優れた家。お客様をはじめ、協力いただくパートナーと互いに信頼し、ポリシーを持ち、他社では持てないステータス、本物を実現していきます。

今 回、ご紹介させていただく池田邸は、陽株式会社として初の新築住宅です。是非とも知っていたきたい要素がたくさん詰まった、他にはない住宅になっています。これには、私が独立起業したきっかけともなった大きなポイントがいくつかあります。

社 会人1年目に「どんな家を建てていきたいか？」と問いかげられたことがあります。私は「外構と住宅がしっかり施工されている家」と答えた覚えがあります。

その時は、どうして庭や外構が完成していないのに引き渡すのが単純に疑問でした。どうしてなのはこの後すぐに理解はしました。しかしずっと引っかかっていました。それは「施主の限られた予算を住宅施工以外の余計なトコロに使わずに済む方法はないか」という事です。ハウスメーカー・工務店などの大きな会社ですと、住宅の施工費としてはもちろんですが、どうしても多数在籍するスタッフの給料なども常時払わないといけない。実際、めぐりめぐってお客様が直接対面していない人の給料まで工事額の中から支払い、庭や外

構・カーテン・家具などにまでまわせないという現実があります。住宅施工以外の費用を如何に少なくし住まう人の為に使い切るかが大事だと思います。また設計事務所にも図面を引いてもらい建設会社を探すとといった方法もありますが、2社を介することになります。それぞれの経費がかかりますし、設計費は安くありません。設計士が多岐に渡る業種の業者を手配し家を建てる事は私の知る限りほんのわずかです。高額で図面を描いてるだけです。逆に、ハウスメーカー・工務店・ゼネコンなどで満足のいく設計力を有する所はほぼ0です。結局ありがちなどこにでもある家になっています。

ま た、以前私が会社勤めをしていたころ、当初は営業と設計を兼ねた業務を担当していました。その後分業化が進み営業業務のみを担当するようになりました。確かに仕事は単純になりました。しかし、それと引き換えに住まう人の希望や要望を具現化することが困難になりました。どこかにある物と同じものを造るのであれば分業化はとても理にかなったものですが、頭で思い描いたイメージを形にしていくには適していません。オーダーメイド住宅・自由設計住宅など言い方は様々ですが、結局は思い描いた生活ができる空間を造るという事。お客様の思い入れも強く、高額で、しかもオリジナル。そんな住宅を手がける際に、ただ作業を伝えるとは異なる本当の意味での伝達や打合せ、引継ぎなどを、漏れなく多数の担当者が掛け持ちしながら

ら完璧に行うのは無理です。担当者それぞれの考え方や理解度によって「あれ？まったく違う」となる実例を経験しましたし、今でもよく耳にします。分業化が適した商品や住宅会社もあると思いますが、陽株式会社にはまったく合わないし、無駄だらけです。

こ んな事もあります。オーダーメイド住宅・自由設計住宅と言いながら結局出来上がったのはどこかで見たことのある住宅。本物ではありません。間取りこそ異なるものの、使う材料や建材は同一メーカーの既製品。色が濃いか薄いかの違いはあるけど、本気で探せばもっといろんなものがあるはずなのに。こだわらるなら、たとえば「ドア枠や巾木は、目立たないように細く」とか「階段は存在感のある鉄骨で」とか、屋根、外壁、キッチン、お風呂、洗面、ドア、床、天井、窓、エクステリアにいたるまで、もっとこだわって造る事ができるものを、作業のしやすさや効率を優先するあまり限定的な選択肢にとどめている。本来は使いやすさやデザインで選び、結果としてメーカーやブランドが別々でも良いはず。細かなところを考え、使いやすさを考え、色合いを考え、予算を考え、様々な事を調整し、希望の空間を実現する。これが本物の「住まう人のための家づくり」だと思います。

私 は私なりの答えとして、営業から、設計、見積、コーディネート、現場管理(監理)、経理まで、大きな会社であれば6人位で分業する業務を1人で

行っています。その結果、どんなにがんばっても年間3棟が限界。それ以上は携われないことになりましたがそれで良いと考えています。その代り、経費は掛からないし伝達ミスも起こらない。だからコストパフォーマンスに優れた1ランクも2ランクも上の住宅を提供できます。今回の池田邸は陽株式会社の始まりであり、集大成であります。「ガレージに赤い1964Imparaを納め、住まう人にとって快適な、世界に1つしかない家を建てたい。」という思いに精一杯お応えした住宅です。

最 後に、自分の好みの住宅を真剣に建てたいとの思いを強くお持ちの池田氏に会えたこと。その住宅を手がけるパートナーにお選びいただいたことに心より感謝します。

LIVING GARAGE

Building owner : IKEDA

Beloved car : Chevrolet Impala 1964 model

Candy red paint

The plan of a house : 3LDKG

2-175-16,Oshima,Toyama city,Toyama

939-8025 JAPAN



陽
建築設計

INTERIOR

The house to live BLACK & RED.

1 Living Garage

エアコンやスポットライトが設置されているリビングガレージ。十分な収納スペースを確保しながら、床付近にはイルミネーションを配するなど遊び心も忘れていない。



2 Living Room(& kitchen)

リビングルームはキッチン、バスルーム、洗面室、ガレージ、階段など、生活動線を中心に位置。アイランド型のキッチンやガラス製の洗面などもシックな雰囲気には溶け込んでいる。



Living Room(& kitchen)

Living Room(& Fixed window)



Child Room



Bedroom



Stairway



Toilet



3 Living Room(& Fixed window)

リビングからはガラス越しにガレージの愛車をインテリアの一部として、ガレージからはリビングで寛ぐ家族の存在を常に感じられる設計。

4 Child Room

遊び盛りの子供たちが、思い思いにポスターや写真などを気軽に飾れるよう、壁の一面はt5コルクになっている。

5 Bedroom

t15メートルのフローリングに真白な壁。シンプルな寝室に配置されているクロコタイル調のベッドは、池田邸に携わった家具職人のお手製。

6 Stairway

2階から階段を見下ろすと、緩い勾配天井と真白な壁に設置されたスポットライト中を貫くように配されている。

7 Toilet

真黒の天井・床、真紅の壁、真白な便器。2階のトイレはシュールでスタイリッシュな雰囲気。